

【担当者名】○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 小島悟 高橋尚明 吉田晋 武田涼子 長谷川純子 佐々木祐二
澤田篤史 大須田祐亮 中村宅雄 山根裕司 岩部達也 佐藤一成 多田菊代 只石朋仁 阿部隆宏 谷口翔平
用田歩

【概要】

本実習では、これまでに学内および臨床実習で学んだ専門的知識や経験をもとに、高齢者施設や障がい者施設等における理学療法士の実践や他職種との協働を広く体験するとともに、担当症例を通じて生活支援場面を可能な限り見学体験し、理学療法との関連について理解することを目的としている。

【学修目標】

事業所内の理学療法業務や他職種との連携の現状を理解する為に、事業所内での理学療法士としての役割を体験し、チームアプローチに必要な基本的態度や技術を身につける。

1. 介護保険制度や障害者総合支援法における実習施設の位置づけや特徴、類似施設との相違、さらには理学療法士の配置要件等について説明することができる。
2. サービス利用者の療養計画（ケアプラン）の構成や作成の手順、作成にあたっての理学療法士の役割を説明できる。
3. ケアプランの理解を基に、指導者の助言のもとリハビリテーション実施に関する書式（リハビリテーション実施計画書等）内容や活用方法などについて説明することができる。
4. 関連する諸会議に参加し、各々の会議の意義や目的、理学療法士の参画意義について説明できる。
5. 指導者の助言の元、理学療法実施場面や施設・在宅における移乗動作や食事動作における介助場面に行き、積極的に見学或いは部分的体験を実践することが出来る。また諸動作遂行に対する理学療法士の連携意義を説明することが出来る。
6. 見学或いは体験した内容、結果、評価などについて、専門用語を使用し簡潔で客観的な表現を用いて記録できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	オリエンテーション	1. 臨床実習の日程と進め方について 2. 臨床実習の課題と提出方法について 3. 臨床実習の評価方法について 4. 事前講義及び事前テスト	鈴木英樹
	臨地実習	高齢者施設、障がい者施設等において臨地実習を行う。	臨床実習指導者
	学内セミナー	臨地実習で学んだことを共有し、学びを深める。 (確認テストを含む)	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習日誌20%、実習報告書20%、セミナー報告20%、確認テスト40%にて判断する。

【教科書】

必要に応じて講義資料を配布する。

【備考】

「臨床実習の手引き」を配布する。

本実習のうち1単位以上は通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションにおける実習とする。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備を行うこと。

関連する各分野の資料や教科書等を用いて復習を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

(DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を實踐できる能力を身につけている。